

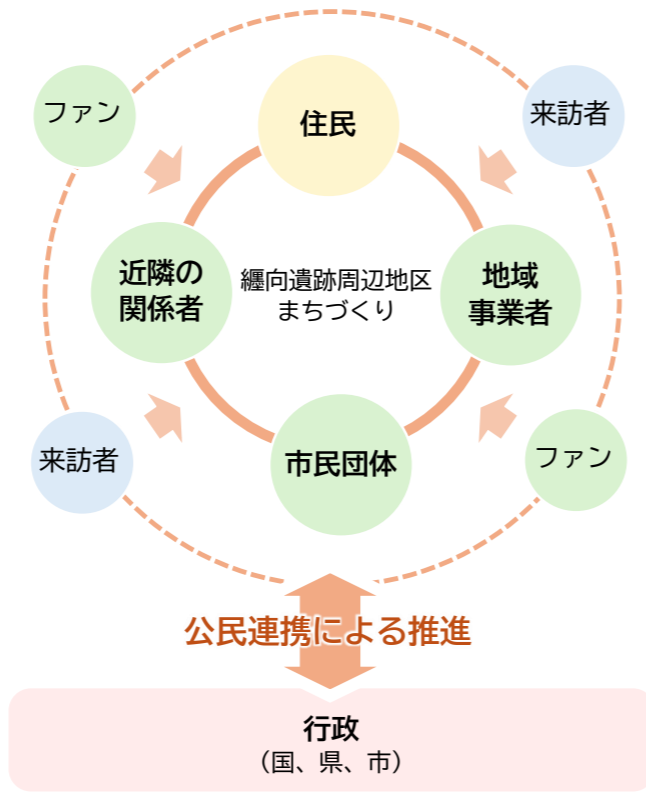
5 実現に向けた取組

(1) 多様な主体の連携によるまちづくりの推進

まちの将来像の実現に向けては、行政だけで取り組むには限界があり、住民、市民団体、地域事業者、近隣の関係者等との連携・協働が重要です。それぞれが役割を担い、公民連携によりまちづくりを推進することが求められます。

また、地域内の直接的に関与する主体に加えて、来訪者やファン等の間接的な関与の主体を巻き込みながら、より一層まちづくりを推進していきます。

- まちに住む人
- まちにかかわる人
- まちを訪れる人



(2) 今後のスケジュール

今後は、以下のスケジュールを目標に、まちづくりで行う各取組を進めていきます。

目標	まちづくりで行う取組	スケジュール		
		短期	中期	長期
基本目標1	● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備	←→		
	● 安全・快適に通行できる道路ネットワークの整備	←→		→
	● 駅周辺の拠点機能の強化	←→		→
	● 低未利用地や空家の有効活用	←→		→
	● 地域ぐるみで取り組む地域学習の促進	←→		
基本目標2	● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備	←→		
	● 既存団体の活動の周知・連携の促進	←→		
	● エリアマネジメントの推進	←→		→
	● 飲食・物販店等商業施設の出店支援		←→	→
	● 多様な接点によるファンとの交流の促進	←→	→	
	● 観光推進体制の強化	←→		
基本目標3	● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備	←→		
	● 市内広域ネットワークの強化	←→	→	
	● 周辺自治体との広域ネットワークの強化		←→	→
	● 看板・案内標識の整備	←→	→	
	● 観光プログラムの開発	←→		
	● エリアプロモーションの推進	←→		→

纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想(概要版)

1 構想策定の背景と目的

桜井市には数多くの遺跡や古墳が残されており、その中でも纏向遺跡・纏向古墳群は前方後円墳の成立過程、日本の国家形成過程と当時の社会状況を知る上で極めて重要なものと認識されています。

そのような中で、纏向遺跡周辺地区*では人口減少が進行し、地域活力の低下が懸念されており、文化財を活用した地域振興・観光振興を通じて、地元住民の郷土への誇りと愛着を醸成しつつ、交流人口や関係人口の拡大を図ることも重要です。

また、JR 巻向駅前広場や周辺インフラ整備など、来訪者にとって利便性の高い環境を整えるとともに、地域内の回遊性向上や経済的な循環を促進するまちづくりの方向性を検討することが求められています。

そこで、桜井市では、国史跡である纏向遺跡および纏向古墳群の歴史的価値を将来に継承し、地域の新たな活力の創出につなげることを目的として、「纏向遺跡周辺地区まちづくり基本構想」を策定することとしました。

*纏向遺跡を内包する大字（穴師、巻野内、辻、草川、太田、大豆越、東田、江包、豊前、豊田、箸中）の範囲とします。

2 纏向遺跡周辺地区の現状と課題

纏向遺跡周辺地区の現況分析や住民・来訪者等を対象としたアンケート調査等を行い、地区の現状と課題について、「まちに住む人」「まちにかかわる人」「まちを訪れる人」の各視点から整理しました。

	まちに住む人	まちにかかわる人	まちを訪れる人
現状と課題	○ 自然や歴史遺産は地域住民にとって大切な地域資源となっています	○ 地域に対する愛着が行動につながっていません（再掲）	○ 豊富な観光資源が十分に活用できていません
	○ 人口減少等により地域活力が低下する恐れがあります	○ 多様な団体が活動していますが、それぞれの団体や行政と十分に連携できていません	○ 纏向遺跡は重要な歴史遺産であり、観光の核となる可能性を秘めています
	○ 日常を支える生活インフラに課題を抱えています	○ 周辺自治体や企業との広域観光に関する施策や事業が展開されています	○ 市内外に豊富な観光資源が存在するが、観光資源の連携が不足しています
	○ 未利用の建物や老朽化した建物が点在しています	○ コアな歴史・考古学ファンが纏向遺跡に高い興味関心を持っています	○ 体験型や学べる活動プログラムのニーズ、カフェ等の飲食機能が求められています
	○ まちづくりに対して期待と不安を感じています	○ 観光協会の機能強化やガイドの拡充が期待されています	
	○ 地域に対する愛着が行動につながっていません		



3 纏向遺跡周辺地区のまちの将来像と基本目標

【まちの将来像】
**歴史と自然にはぐくまれ、
 多様な主体と地域の資源が調和し、
 つながる持続可能なまち**

桜井市は、纏向遺跡等の歴史的価値を将来に継承し、多様な主体の関わりのもと、地域の新たな活力の創出につなげるまちづくりを推進するため、以下のように「まちの将来像」と「基本目標」を設定しました。

<p>まちに住む人の視点</p> <p>基本目標1</p> <p>誇りを持ち、安心して暮らし続けられるまちづくり</p> <p>地域の問題に対応するとともに、新たに整備される史跡纏向遺跡交流館（仮称）を有効に活用することで、文化財の保全・活用や地域コミュニティの形成に取り組み、より一層、住民が誇りを持ち、安心して暮らし続けられるまちづくりを進めていきます。</p>	<p>まちにかかわる人の視点</p> <p>基本目標2</p> <p>協働により新しい魅力を生み出すまちづくり</p> <p>市民団体や事業者等の地域に直接的に関与する主体の活動について行政の部局横断的な支援のもと拡充や連携を促進するとともに、来訪者やファン等の地域に間接的に関与する主体にも訴求する活動に取り組むことで、多様な主体の協働により新たな魅力を生み出すまちづくりを進めていきます。</p>	<p>まちを訪れる人の視点</p> <p>基本目標3</p> <p>訪れるたびに新しい発見と心地よさを感じるまちづくり</p> <p>纏向遺跡を文化財として保存しつつ、観光資源として磨き上げるとともに、本市や周辺自治体が有する豊富な観光資源と一体となって、ここでしかできない体験や利便性・快適性の高い観光環境等を提供することで、来訪者が訪れるたびに新しい発見と心地よさを感じるまちづくりを進めていきます。</p>
--	---	---

4 纏向遺跡周辺地区まちづくりで行う取組

【主要な取組】

<p>史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備</p> <p>地域の交流拠点や市民協働拠点として機能するとともに、学びや観光のための施設として、史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備を推進します。</p> <p>史跡纏向遺跡交流館（仮称）イメージパース▶</p>	<p>地域ぐるみで取り組む地域学習の促進</p> <p>子どもだけでなく多様な世代の住民が生涯に渡り、地域の自然や歴史に触れ、学ぶ機会を創出します。</p> <p>〈参考事例〉田植えを通じた地域学習（青谷かみじ史跡公園）</p>	<p>周辺自治体との広域ネットワークの強化</p> <p>周辺自治体の観光資源・施策とも積極的に連携し、周遊イベントの企画運営、移動手段の拡充に取り組めます。</p> <p>〈参考事例〉多自治体による周遊バス事業の展開（但馬地域）</p>
<p>エリアマネジメントの推進</p> <p>多様な主体が連携し、情報交換や連携を進め、エリア価値の向上に向けて、多様な活動を展開します。</p> <p>〈参考事例〉産官学の参画により観光まちづくりの推進（新宮駅周辺）</p>	<p>多様な接点によるファンとの交流の促進</p> <p>“纏向ファン”とも多様な接点を設け、情報発信や交流促進を図り、まちづくりや施設運営に活かす取組を行います。</p> <p>〈参考事例〉寄付プロジェクトによるベンチの設置（安満遺跡公園）</p>	<p>駅周辺の拠点機能の強化</p> <p>JR 巻向駅を中心として、鉄道、バス、自転車、自動車等の多様な交通手段が有機的に機能し相互に補完できるように、駅周辺の利便性の向上を図り、交通結節機能や地域拠点機能を強化します。</p> <p>〈参考事例〉駅舎改修に合わせた地域拠点の形成（JR 山陰線阿川駅）</p>

まちの将来像や基本目標に基づき、以下の図に示す取組を進めていきます。

【まちづくり構想図】

各基本目標の取組内容

<p>基本目標1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備 ● 安全・快適に通行できる道路ネットワークの整備 ● 駅周辺の拠点機能の強化 ● 低未利用地や空家の有効活用 ● 地域ぐるみで取り組む地域学習の促進 	<p>基本目標2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備 ● 既存団体の活動の周知・連携の促進 ● エリアマネジメントの推進 ● 飲食・物販店等商業施設の出店支援 ● 多様な接点によるファンとの交流の促進 ● 観光推進体制の強化 	<p>基本目標3</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 史跡纏向遺跡交流館（仮称）の整備 ● 市内広域ネットワークの強化 ● 周辺自治体との広域ネットワークの強化 ● 看板・案内標識の整備 ● 観光プログラムの開発 ● エリアプロモーションの推進
---	---	--

※具体的に場所を示す内容は図示しています

■ 纏向遺跡周辺地区
 □ 遺跡範囲

0 500 1,000 m